

# アコーディオン アンサンブル <sup>エア</sup> Air

創刊号

2004.7 発行

発行 アコーディオン アンサンブル エア 事務局

東京都世田谷区羽根木 1-25-10

TEL 03-3324-1776 FAX 03-3324-3672

編集 前原祥子 SMAehara@npo.jaa.jp

## コラボひろば

雪田 芳乃  
Kanna Yukita

北海道出身。平成6年東京に移る。現在は東京在住。

CDジャケット、如況向け雑誌、ゲームジャケットのデザインを経て、現在はWebデザイン、コンサートグッズなどのデザイン、その他のデザイン、イラストなどフリーで活動しつつ、手書きTシャツ等も作成しています。

E-mail: yukiko@kc4.so-net.ne.jp

TEL 080-5076-0109/03-5481-2507

FAX 03-5481-2507

\*“Cocokara” に出品中！

Music.



Kanna



# アコーディオン アンサンブル <sup>エア</sup> Air

## アコーディオンアンサンブル Air 設立のごあいさつ

日頃から「ちょっとひといきコンサート」をはじめ、様々な場面でおつきあい頂き、またひとかたならぬご協力、ありがとうございます。

このたび、音楽センター中級・研究科三多摩教室はこの四月末をもって発展解消し、あらたに「三多摩アコーディオンクラブ」として独立いたしました。また、昨年7月開設の「羽根木アコーディオンクラス」、そして演奏集団としての「アンサンブル Air」と合わせ、この三つの教育・演奏体を含めた総合的音楽活動集団としての「アコーディオンアンサンブル Air」を設立致します。

「アコーディオンアンサンブル Air」は、アコーディオン音楽の普及と向上をめざし、演奏と教育を軸に教材・曲集の発行や各種セミナーの開催、奏者派遣などの諸事業を行う団体として再出発することになります。

約三十年の教室の伝統を受け継ぎ、かつ新しいビジョンをもって地域に根ざした活動を進め、アコーディオンの広がり高めを目指していく所存です。

これまでのご支援に深く感謝いたします。

今後とも、あたたかい励ましやご指摘など頂ければ幸いです。

アコーディオンアンサンブル Air  
主宰 川口 裕志

## アコーディオンアンサンブル Air これから、あれこれ

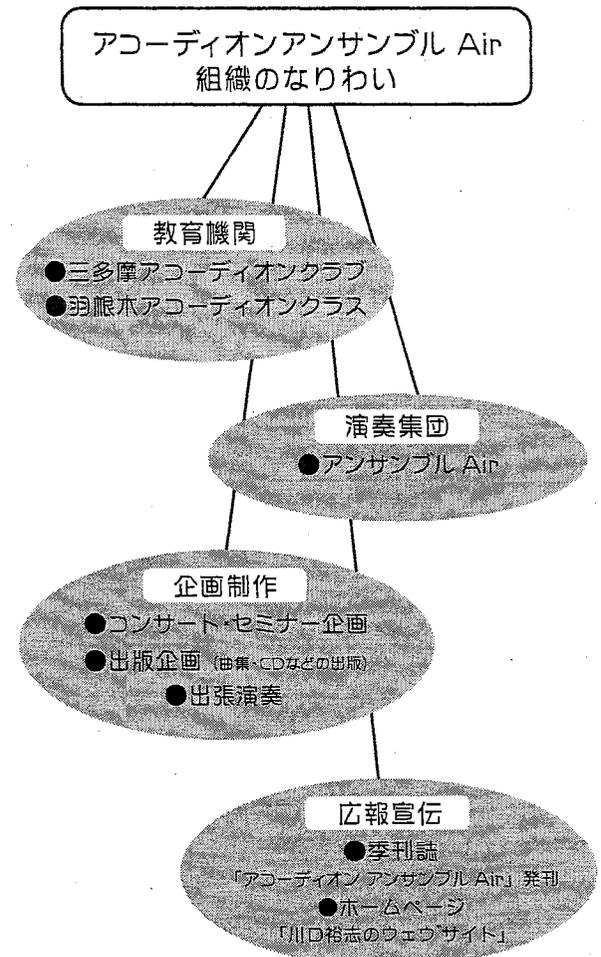
アコーディオン アンサンブル Air がスタートしました。演奏部隊の「アンサンブル Air」は他楽器・他ジャンルのメンバーと組み、旺盛な活動を進めています。ミニコン、教会、老人ホーム、喫茶店・レストランでのティータイムコンサート。この先も、同様のライブ活動とあわせ、関東アコーディオン演奏交流会15周年記念コンサート(9/19)への推薦演奏(上級および初心者の部第1位の2人のソロ演奏)、公共ホールオーディションによるコンサート出演(西東京市)、EXPO 2005(愛知万博)のコンサート出演(05/9)など目白押し。

一方、教育機関(三多摩アコーディオンクラブ/羽根木アコーディオンクラス)としての演奏活動も盛り上がっています。福祉祭りや福祉施設での演奏参加(日野市)、ビバ・アコーディオン(大阪)出演、「関東アコーディオン演奏交流会(コンクール)」合奏・重奏・小アンサンブルへの出場4組(9/12)などなど。

2005年は、「第4回JAA国際アコーディオンコンクール」の年。ソロ、アンサンブルでのコンクール出場を初め、課題は山ほど。「ちょっとひといきコンサート2005」(15周年記念コンサート)も射程距離にあります。

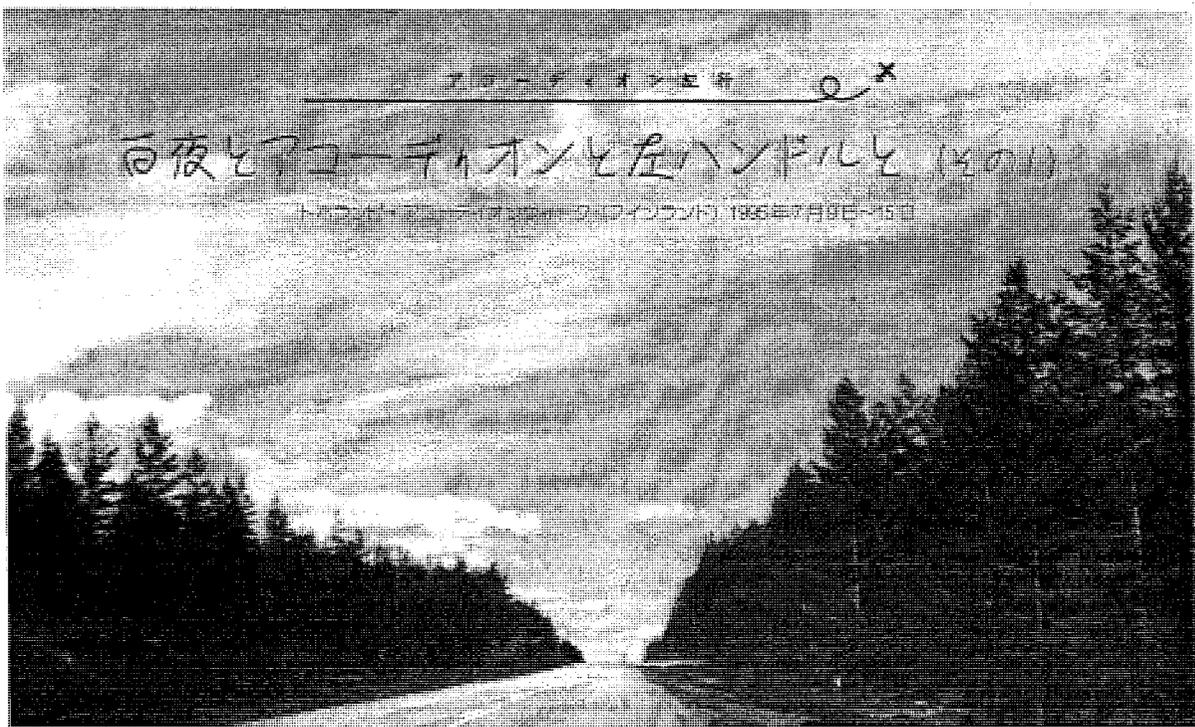
ちょっと目先を変えて見たら、こんなに多くの活動が…。今まで、コンクール、オーディション等、そして「ちょっとひといきコンサート」や節ぶしの発表にひたすら努力してきた積み上げが、いま花を咲かせて…。

アコーディオンがこんなに求められている時はありません。



# 白夜とアコーディオンと左ハンドルと (その1)

トホランピ (フィンランド) 1986年7月9日~15日



▲ヌケルような青空と森、フィンランドの真夏の風景 / 「JAAアコーディオニストVol.2」から転載

地平線の彼方にゆっくりと沈む夕日を眺めながら、私たちはしばし茫然としていた。牧場の真ん中に立ち、辺りを見渡せば、なだらかな平地に森の木立ちがここそこにあるのみで、山というものがかく見当たらない。夕日を浴びながら、牛たちが草を食べている。西の空に日が沈み、夕闇が迫る…と同時に、東の空には満月が輝き、辺りを照らす。まったく、この自然は闇を知らない。トホランピの夜12時。

「来て良かった！」一松永氏がつぶやき、私がうなずく……(すべてうまくいった)。

この夏、北欧フィンランドで「第10回トホランピ・アコーディオンウィーク」というフェスティバルが、一週間にわたって行われた。トホランピは、ヘルシンキから北へ500km、人口4000人の小さな町。主な産業は牧畜で、起伏のない、「八ヶ岳高原」をどこまでも広げたような平地の避暑地である。ここに、日本から初めて参加した一行は、松永勇次 (JAA副会長)、川口裕志 (同事務局長)、大滝早苗 (ウインドバスカーズ)、大田智美 (国立音大付属高校1年生) の4人であった。大田 (研修生) 以外は視察団として、「ウィーク」の一部始終を見学・取材した。

人口500万人の国に、愛好者は10万人。

トホランピのアコーディオンは、ポルカ、ワルツからジャズ、クラシック、そして新しい現代の作品に至る様々な音楽が同居し、それらを老若男女が一様に楽しんでいるところに特色がある。町のスーパーマーケットの棚にはアコーディオン音楽のカセットテープがあり、カーラジオからはアコーディオンミュージックが流れている。

## 白夜とともに10時からのコンサートが…

国内外のアコーディオン奏者と研修生出場による、連日、連夜のコンサートが行われた。夜10時からのプログラムもあった。期間中の、朝のお祈りや、老人クラブの歓迎会、深夜のダンスパーティなど、すべてアコーディオン音楽である。市民ホール (100人弱) をメインに、学校、体育館、野外広場などが会場とされた。

一方、市の裁縫芸術学院を全館借り切りでの研修には受講生約50人が参加した。半数以上が10代の子どもと学生。あとは大人で、50才以上の中高齢がめだつ。マンツーマンの独奏レッスンとアンサンブル、および発表会が主なプログラムで、一見、私たちの夏期講習会でやっている風景と変わらない。ただ違うのは、広い教室に一人ほぼ一時間という、ゆとりの個人レッスンだ。研修5日間で、講師一人あたりの受持ち人数5人とは、余裕の産物である。(次号に続く)



▲大田智美の御旨英江レッスンを視察



## ちよつとひといき ファミリーコンサート2004

2004年4月18日、さまざまな方々のご協力を得て、無事終えることができました。  
ご協力してくださったみな様、本当にありがとうございました。  
お客様がお寄せ下さった感想を抜粋しておきます。



●子供さんのオープニングで始まったコンサート。将来が楽しみの子供演奏家でした。●ジェンニリンドボ



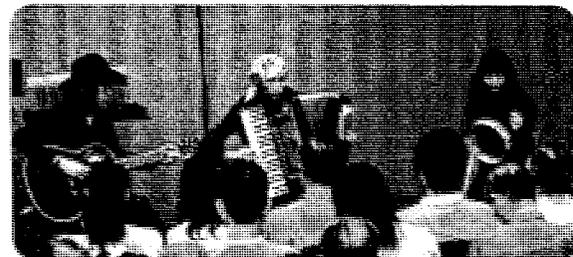
ルカ・・・それぞれがパートを受け持って、互いの音を良く聴いて素敵な四重奏でした。軽快でよかった。



●祖国よさらば・・・感情を押し付けるような感じを持ちました。以前取り組んだ曲を、他の方が演奏するのを聴き 勉強になった。●喜びのカンタータ・・・情感たっぷりだった。●ピングのテーマ・・・息が合っていて楽しく聴けた。●ムーンリバー・・・短い、



もう一曲必要。●アメリのフルツ・・・ウクレレがおもしろかった。映画を思い出した。アメリのフルツのアコ良かったですよ。●涙のトッカータ・カチューシャだって良かったです。●カチューシャ・・・どういわけかピタッときた。



●ピアノ、素敵でした。●S.V.P. アヴェマリア、オペリビオン、リベルタンゴ・・・アコーディオンの力強さが生きていた。●リベルタンゴ・・・アンサンブルがとてもよく合っていた。リベルタンゴのリズムの刻みが良かったです。●アヴェマリア・



・・・イイですね! ジーンとききました。●オペリビオン・・・アコーディオンの太く響く音とチェロのやさしい音とが相乗効果でより空気に伝わってきた。



●川口先生の伴奏もすてきで勉強になりました。

●広川さん・・・明るい司会が良かった。きれいな歌声でもう一度聴きたい。クラシックの発声

ですすがだった。彼女らしい歌をもっと多く選曲して欲しかった。オペラ系の曲を4曲ぐらい聴きたかった。大人向けのコンサートにして欲しい。子供も大人も楽しめる選曲で良かった。“癒しの声”での司会、さらに独唱は今日の演奏会を更に満足させてくれた。何と素晴らしい歌! 声量に驚き。プロの声学の魅力を改めて感じた。オーソレミーオが特に素晴らしかった。身体が震えるようで最高。大好きな曲。

●ディビッド・ファーマーさん・・・素晴らしかった。繊細な音色がした。子供組曲がおもしろかった。アコーディオンも繊細な音が出るということを知らせてくれた演奏で素敵だった。アコーディオンの全機能を充分使い切ったような技術の高さにおどろいた。今日来た甲斐があった。次回も是非聴きたい。最高! 「皆さんこんにちは!」の一声、素晴らしいアコーディオンの演奏と柔らかいお声で、さらに一歩アコーディオンに近づけた。アコーディオンという楽器が身近に感じた。生の音が聴けて感激です。毎日聴きたい。ボタンアコの生の音色はあまり聴けないので嬉しい。本当のアコの良さを聴けて良かった。やさしい柔らかい音を知った。世界的な方の演奏が聴けて幸福。さすがプロ。とても楽しく、アコーディオンかと思うほどだった。





弾いてきました！  
萩原 理美

●3/20 (土曜日)  
歌館野スウィングホールにて  
(70名/140席)

合唱発表会でのゲスト演奏：独奏10分、  
リコーダー伴奏、歌伴奏

●5/9 (日曜日) 小金井豊井南町キリスト教会にて  
「母の日」イベント

特別演奏として、独奏J.S.バッハ「主よ人の望みの喜びよ」  
讃美歌伴奏：愛の神よ～ 歌) 広川 恵

壁画「キリストと少年」と、グランドピアノとオルガンのある椅子が30席あまりの小さな教会。厳かに礼拝がはじまる。その前に、教会に足を踏み入れたと同時に、神父様と広川さんとともにお祈りしていただいた。皆で讃美歌を歌い、お話の間に演奏させていただく。教会の中でも、イベントそのものも初めての演奏。

そもそも、前日に老人ホームでのボランティア演奏の練習会から、「明日あいてたら、バッハを弾いて！」「加えて、讃美歌の伴奏もできる？」と、お風にかレーライスがでる、との話に二つ返事でOKしてしまった私。

自宅に帰ってから、神様の前でこんなに気軽に弾いていいのだろうかと急に不安になり、猛練習。といっても今日の明日なので付け焼き刃であるが……。しかしながら、お祈りしていただいたおかげか、やはり神様はお力を貸して下さいのかと思う程、無心に演奏できた。とても気持ちがきれいになるといふか、浄化された様。その後の神父様のお話を聞いている内に、涙が頬をつたってきた。なんととも言えない感動、不思議な体験をさせていただいた。

礼拝が終わった後は、子供達と男性陣が前日から仕込みをしていたカレーライスをいただく。とってもおいしく、楽しくお茶をしながら交流会。たまたま先日旅行中にアコーディオンの野外コンサートを聞いてきた、という方もいて話が弾む。おもわずリクエストあり、広川さんと一緒に「さんぽ」「エーデルワイス」「帰れソレントへ」など。「今度はラ・クンバルシータを弾いてね」チャレンジ！

●5/23 (日) 世田谷きたざわ苑 (老人ホーム)  
地域まつりボランティア演奏に行ってきました！

広川恵さんをリーダーにした「アンサンブルグレース」のメンバーと初参加。正味1時間のコンサートプログラムです。前半はピアノの伴奏で広川さんの独唱4曲、間にアコーディ

オン2曲と皆で歌いましょう！曲いれて、後半はピアノとアコでの伴奏で、歌が入りました。日本の歌メドレー「春から夏へ」は計10曲、ラストに「マイ・ウェイ」「帰れソレントへ」で拍手喝采でした。ロビーホールなので、ほとんど屋外のような状況。出店も有り、賑やかだった会場に、車椅子の方と付き添い、職員の方が徐々に集まり、ホールに溢れて立ち見ができるほど。ざわついた会場が広川さんの歌声が始まると静まり、皆さん聞き耳立てて集中！アコーディオンは、ピアノさんとの初デュエットで、リクエストの多かった「ラ・クンバルシータ」と「剣の舞」。目の前のお年寄りの方々が笑顔で拍手してくれたり、かけ声がかかったりと、とても楽しくひけました。

この度は、地元三多摩でやろう！と夢膨らんで帰路につきました。



■ビバ・アコーディオン in 大阪 (松原市文化会館)  
越村 あや子

5月30日 日曜日。10時半から始まって午後4時まで。その間10分間の休憩が2回あったのみ。プログラムは35番まで。36番にゲスト演奏が入って終了は5時。[1部 独奏 2部 重奏・アンサンブル 3部 合奏] 3部の合奏の部で出場してきました。

出場に至るまでの過程は半年にも。昨年11月、伴奏講座に参加し、お近づきになった人達。そして何かのおり、大坂で、「ビバ・アコーディオンというのがあって」というお話を耳に。時が流れ忘れかけていたところに再び浮上してリーダーの池田さんに、「いきたい。いきたい。大阪行にきたい」とよく考えもせずに言っている私がいました。

4月も10日ほどたったころ楽譜が。「ガボット」だと聞いていましたが、CD付きなので聞くことができました。何度か聞いていても分かりません。私の与えられた楽譜はメロディーではないので分からなかったのです。

5月に入って練習日が決まり、9日と16日のいずれも日曜日。現代座というところにつれていかれたが、今もどこにあるのかわかりません。そこで各3時間、びっちり指導を受けました。Vlaというのが私のパート。ピオラだということがその時に初めて分かりました。ララファソラソミ|ファーというメロディーに私のピオラが レシ|ラーラ|ラーと入ります。池田さんが部分ずつ指導してくれます。「少し良くなった。もう一回。」「うん、少し良くなった。もう一回。」などなんと言われたことでしょう。池田さんがもういいかな？というところに次に進むのです。最後に通しを数回やってお終い。

私のパートは易しいようで合わせるのにひと苦労。途中から分からなくなって、どこから入っているのかわかっても見ません。最後まで弾けずに終わってしまいました。もうひとり同じパートの人がいたので安心でした。

さて当日、金曜日。東京駅23時発の銀河(寝台車)にて出発。東京から8人でしたが寝台車組は6人。3人づつ向かい合って座ってピーチクパーチクと音楽談義。いいことたくさん聞きました。質問もできました。車掌さんに「他のお客様はお休みになっています・・・」と注意をされて。7時18分大阪着。朝食を駅ビル？でいただき、広島から見える方を待って一路藤林克寿先生の所へ。「大阪見学？そんなに甘くはないよ。」と言われてしまいましたがその通り。到着するとすぐにアコを出して指囁らし。そして合わせ、延々

と。お風呂にもう一人到着して、食事を済ませ、再び練習開始。私の相棒は当日本番間際にくるといのでパートナーでもう大変、責任重大。曲にのれませんでしたなんて言えません。そのお陰か、かなり上手くなったと言われてご機嫌です。本番でもちょっと間違えましたがなんとか演奏できました。4人が二曲目の練習に入ったときに私を含めた他は音楽談義や、個々のパート練習に熱中。夜は藤村先生のセカンドハウスに行ってメンバーで料理。作って食べて・・・。譜面やアコの本がずらりと並んでいる部屋に入り込んで物色。いろいろ見つけてコピーしていいよと言われ、遠慮なく頂いちゃいました。

この夜も大きな収穫がありました。

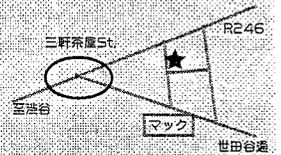
演奏は4分でおわりました。4分の曲に多くの時間をかけ、距離をかけ、沢山の思い出が作れたことは私のアコーディオンの歴史にすてきな1ページを作ってくれました。語り尽くせない数々の事柄。感無量で閉じます。

はまるで違うのです！センスはバツグンながら、商店街に帳ざしたあたたかみある雰囲気です。

“cocokara”（前川さん）のまわりには、アコーディオン好き、音楽好きが自然とたくさんあつまって（まるで灯りを求める夏の昆虫のように！）、下町情緒たっぷりの三茶のお店の軒先で、今にもアコーディオンの合唱を響かせようと目論んでいそうです。すでに6月には、萩原理美さんが立ち寄って演奏してくれたそうです。

そして、7月31日（土）には、ジブシーギターの若柳吉三郎さんとジャズアコーディオンの渥美知世さん（会報No.39のJUST NOWで紹介）の演奏が、夜9時から聴けるそうです。是非、足を運んでみてください。

▼お問い合わせ  
三軒茶屋「Cocokara」  
営業時間：11:00～20:00  
東京都世田谷区三軒茶屋2-1-3-16  
エコー仲見世商店街  
TEL:03-3413-7332  
MAIL:cocokara@sangen-jaya.com



## みんなのコラム

### ■私とアコーディオン

中嶋 徹

いま私は、アコーディオンに出会四年目になる。

正確には、二十数年前日野アコーディオンサークルで川口先生の初級講座を受けました。一年ほどで、頓挫。仕事の関係でつづかなくなり、涙をのみました。再度、ちょうど四年前にまた日野アコーディオンサークルに入会。一年ほどたった頃でした。先生からの薦めで国際コンクールにエントリーする決心をいたしました。音楽センターの三多摩中級教室へかよいはじめたのはそれからです。冬に向かい寒い夜、重いアコーディオンを肩に背負い、もう無我夢中でした。ただがむしやりに仕事から帰るとアコを弾きまくる毎日、弾くわりには上達せず焦りの毎日。音楽センターグレードテストなどあり、それでもコンクールが近くなると身体が震えました。その緊張感のうちにあってしまい、終わって見ると妙な度胸がついてしまいました。力もないくせにやたらと人の前で弾きたがる。私の弱点は、リズム感が悪く、楽譜に弱いこと。読譜力をつけるためと思って手当たりしだいに色々な曲に手をつけて完成度の低いまま人様の前で弾き失敗ばかり。

アコーディオン・エアーになった今年はもっともっと基本を身につける一年にしたいのです。私の職場は老人介護の職場ですので、時々働いて頂けるのはとても幸せ。仕事の合間で指痛らしも無くちょっとつらいけど聴いて下さるだけめくまれていると言いつながら一層励むこのごろ。



### ■“Cocokara”からアコーディオンを発信！

世田谷区三軒茶屋に、羽根水アコーディオンクラス・前川紀子さんのレンタルボックス“Cocokara”が今年3月にオープンしました。個性的で素敵なアーティスト・作家さんたちの作品が並ぶこのお店は、内装も前川さんたちの手作りで、一般的にありがちな無個性な街のレンタルボックス店と

### ■1年たって・・・

前原 祥子

息子とアコーディオンを始めて、早いもので7月で1年！5才でアコーディオンに埋もれていた一陽も、今では素巧と持って弾けるようになりました（まだ運ぶのは、母ですが・・・）。この春から小学校に通い始め、たくさんの新しい出来事やお友達に、まだまだ興奮がみなうえ、学童クラブでめいっぱい遊んで夕方5時に帰ってくる毎日。お風呂のあった保育園のときはくらべものにならないくらい、早く眠くなってしまいます。帰宅してから眠くなる前までに、夕飯とお風呂と宿題とアコーディオンの・・・アコーディオンの練習・・・あ～今日も出来なかった～ こんな日が平日はほとんどで、どうにかがんばってやっても眠さで機嫌が悪く、いつもケンカばかり。練習はしたがらなくても「ママと練習するより、やさしく教えてくれるから、川口先生の方がいい！」と、レッスンにははりきって通うんですけどね。これからどんな風に家で練習するかが課題ですね。学校で購入したメロディオン（鍵盤ハーモニカ）、「鍵盤が見えるから一番好き」なんて本音もちらり。でも、アコーディオンが好きな気持ちは変わらないらしく、学校からいろんなスポーツチームの勧誘のチラシをもらって来た時に、「僕もやりたい！」と思ったようですが、毎日、毎週末のように練習があり、でとてもアコーディオンとは両立出来そうもありません。「本当にやりたいならやってもいいけどアコーディオンと両方は無理だから、本当にやりたいのはどっちか考えて。」という「あ～じゃあ僕、アコーディオンのほうがいいから、いいや！」ということで、あっさり一件落着。私としては、ずっと一緒に弾いていけたらいいな～と思っています。練習でケンカになるのはいやだけど、2人で楽しく弾けたときはとても幸せな気分なんですよね～。

Wellcome 新しく入会されました！！

羽根水アコーディオンクラス（世田谷区羽根水/JAA事務局2F）  
池上知嘉子（ミュージカル「CABARET」音楽ディレクター）  
金子 早織（多摩美術大学映像学科1年）  
富平 政治（「自伝史」編集委員代表）  
三多摩アコーディオンクラブ（国分寺市/東京都国分寺政会館）  
高橋 徳敏（経理事務所経営）  
高橋さとみ（読売・日本TV文化センター・ジャグリング講師/画家）

◎ 私の行っている教会は日曜日の礼拝に20人弱くらい集まるところです。先週の土曜日にポランディア演奏の合わせをしていたところ（この合わせも疲れさせてしまったかも・・・ピアニストと私がぶざけまくっていたので(笑)）日曜日の用事がキャンセルになった、と小耳にはさんでしまい、強引に萩原さんに演奏しに来ていただくことになりました（ご存じですよ）。

おばちゃんしかいない教会ですが、みなとても喜んでくれました。第一声「アコーディオンなんて！懐かしいわ〜！」（私は懐かしくありませんが・・・そうなんですかねえ）私も一曲伴奏していただき、讚美歌を歌わせていただきました。最近では伴奏者がおらず、私も教会では歌わなくなっていたので久しぶりに礼拝の中で讚美をすることができて教会員も私も力づけられました。

風食の後も皆大喜びで私も勝手にリクエストしたり・・・すみせん皆も勝手にあの曲この曲と・・・盛り上がってしまいました。「次はラ・クンパルシータ弾いてね」と萩原さんはおねだりされてました（〜）（アコーディオンといえば普通はこの曲なのでね・・・）萩原さんはお人柄も素敵なので、お話もたいそう盛り上がってました。

あまりに手紙があつたので、秋にアコーディオンとコンサートをやる予定です・・・なんて宣伝してしまいました。お忙しいでしょうか、どうぞその時はよろしく御願いたします。ではでは お休みなさいませ。 広川 恵

◎ ご報告を嬉しく思います。音楽家にとって、みんなに喜んでもらえることは何ものにも代え難い喜びですよ。教会はバラックのような（失礼）建物と伺っていますが、小さな箱の中で音楽を楽しんでいる皆さんの様子（なんと贅沢な）がリアルに伝わってきます。

教会にアコーディオンは最過。何故かと言うと、アコーディオンの起りは教会の牧師さんの宣教活動に由来しているからです。昔（19世紀半ば）、ドイツの片田舎の牧師さんが宣教流布のため、オルガンのない教会で、または街頭で演奏できるオルガンを、と開発したのがアコーディオン（移動オルガン）と言い伝えられています。こんな小さな箱の中にオルガン（しかもボタン一つでコードを弾くことができる）を詰め込んだ牧師さんは、よほど頭のよい人だった、とつくづく思います。だから、（僕はまだ一度も経験していないのだが）教会で演奏することが、アコーディオン音楽の原点のような気がして、そんな機会が与えられたことを素晴らしいと思ひ、とても楽しみにしているのです。

それと、僕は何一つ、宗教的な信仰は持っていませんが、少なくとも、教会に安らぎを求める人々の気持ちは（痛く？）判る（つもりだ）から。もっといえば、教会が、民衆と音楽のかかわりの一つの原点だとも思っているからです。駆け込み寺であったり、革命戦士をかまくらう場所であったり（とくにラテンではその傾向が顕著）・・・と、「社会の矛盾のつぼ」ではないかと思ひます。そこに音楽があり、いやされ、動まされ、勇気を与えられる―これは音楽の原点の一つでもあると思ひます。

遅ればせながら、JAA機関誌「アコーディオニスト」No.19への早速の寄稿、ありがとうございました。 川口 裕志

☑ 川口先生

この度は、大成功に幕を閉じました。コンサートの御礼状を、わざわざ、ご丁寧ににお送り下さいまして、ありがとうございました。日々のお忙しさにこちらこそ貴重な体験をさせて頂いたお礼がすっかり遅くなりました事、申し訳ございませんでした。

今回、初めてアコーディオンという楽器、音楽に触れ、想像以上の楽しさと、また、（失礼ながら・・・）予想外の繊細な音楽、音の響きやタッチ・・・を知り、今ではすっかり大好きな楽器の1つとなりました。本当に楽しい一時をありがとうございました。いよいよ梅雨本番となり蒸し暑い日々が続きますが、どうぞお体ご自愛下さいませ。

佐藤 野ゆり

アコーディオン アンサンブル Air

\* 演奏して頂きました \*

- 5.16 (日) 「北沢老人ホーム」(世田谷)  
萩原理美 広川恵 他
- 5.30 (日) D.ファーマー/若大
- 5.30 (日) ビバ・アコーディオン(大阪) 越前あや子
- 6.1 (火) 広川恵 コンサート出演
- 7.9 (金) カフェコンサート(小金井)  
/萩原理美 広川恵
- 7.15 (木) カフェコンサート(世田谷)  
/川口裕志 萩原理美 広川恵
- 7.24 (土) 竹内直子&D.ファーマー2人のコンサート  
/楠浜
- 7.25 (日) D.ファーマー コンサート/リリアH

アコーディオン アンサンブル Air

\* これからのスケジュール \*

2004年

- 8.6 (金) ~ 埼玉アコーディオン協議会合宿(埼玉)/講師:  
川口裕志 松永勇次 柴崎和佳 山岡秀明、他
- 8.10 (月) ~ 北京国際コンクール/審査員: 松永勇次 川口裕志  
通訳: 貴鶴安 随行員: 柴崎和佳 森陽介
- 8.21 (土) ~ 音楽センター夏期講習会(丸沼高原)/講師: 川口裕志  
松永勇次 柴崎和佳 中山英雄、他
- 8.30 (月) 広川恵コンサート
- 9.4 (土) 特別練習会(関東コンクール準備)
- 9.12 (日) 第15回関東コンクール(聖奏/アンサンブル)  
会場: 赤羽会館  
「ボックリーニのメヌエット」  
出演者: 中嶋聡 越前あや子  
「GASVIC」出演者: 前原一陽 花田るね 内藤ゆな  
「アメリカのワルツ」出演者: 前原祥子 佐藤野ゆり  
バインブラザーズ  
「喜びのカンタータ」出演者: 前川紀子 萩原理美  
花田かよこ
- 9.19 (日) 関東15周年コンサート会場: 赤羽会館  
「パッサリ/ガボット」出演者: 萩原理美(上級1位)  
「アムール河の波」出演者: 前川紀子(初級者1位)
- 10.25 (月) 発表会
- 11.2 (火) カフェコンサート(西国分寺)  
出演者: 川口裕志 萩原理美 広川恵
- 11.7 (日) チャペルコンサート(小金井、曹井教会)  
出演者: 川口裕志 萩原理美 広川恵
- 12.20 (月) クリスマス・ミニコンサート(西国分寺)

2005年 (予定スケジュール)

- 1月 ひとコンオーディション(西国分寺)
- 3.5 (日) 音楽センターグレード検定
- 8.25~9.4 サマーフェスタ2005(第4回JAA国際コン)
- 5月 ちょっとひといきコンサート2005
- 9月 EXPO2005 in 愛知  
第16回関東コンクール(独奏)  
西東京市コンサート  
出演者: 萩原理美 前川紀子 花田かよこ (Vc)